

CL人生八つの大悟

David K. Reynolds

dkreynoldsjapan@gmail.com

(日本語対応返事英語)

dkreynolds@juno.com (英語)

<http://constructiveliving.org> (英語)

<http://constructiveliving2.weebly.com/>



(一)

どう人生が終わるのか、これから健康がどう持ちこたえるか、死の体験がどんなであるか、どうやって知ることなのか、私たち人間は本当にまったく何もわかりません。

(二)

欲求は満足と不満、喜びと苦しみの両方を連れてきます。欲求は自然に起きます。欲求自身は消されることを必要とせず、自ずから消えることはできません。他の感情より、ある欲求を強調するのは可能です。恐れや怒り、不安のような感情からの開放を求めるのは賢い目標ではありません。そのような感情は、社会に認められるとか、自己主張や自己防衛などへの自然な欲求を現しています。どんな欲求もあるがままに受け入れますが、欲求どおり行動される必要はありません。

(三)

今、持っているものや達成したことに対する不満なのはたいへん結構です。もっと多くを得よう、もっと尽くそう、さらに理解したい、もっと与えるなどの欲求は、建設的で積極的な行動への勢いと苦悩を提供します。不満は、理解に努め、他の人たちやもののために尽くすために自分を投げ出すよう駆り立てます。

(四)

自己中心の状態は、他の人を含めた周りの環境について発見することから注意をそらしてしまう感情の激しい波を起こします。環境全体に埋め込まれた自分の現状は、より広い一連の目的と実際的な見方を与えてくれます。

(五)

うまく教えるためには、人は一人の生徒であらねばなりません。学ぶためには、人は大事なことはすべて知っているという考えを捨てなくてはなりません。教えるということは教え、教わるの両方です。知識は喜びと苦しみ両方をもたらしますが、知識は無知ではない人生の機会を与えます。

(六)

富はある種の限られたことだけに与え、他の類のことは制限します。与えるチャンスがない人はいません。隠れた贈り物を捜して与えることは意味のある人生目標になります。贈り物を受け取ることに注目したり、贈り物を要求したり、もらえなかった贈り物に憤慨したり、贈り物をあさるのはよけいな苦悩を増やします。

(七)

いつも清らかで、親切で、与えるばかりの人はいません。人はみな一瞬一瞬変わります。喜びと修練はどちらも人生に必要です。徳行はグループや個人によっていろいろに定義されて、様々な形で示されます。

時間が十分に使われなかったとしても一定の限られた時間は私たちを許します。つまずきながら高い目標に向かうのはいいのですが、地形を確認してください。

(八)

誕生と死は人の理解の限界を知るのを助ける偉大な謎です。人は未知のところから来て、未知の場所

に行きます。生きる間に、私たちはこの大きな事実の一部として自己理解を深めることができます。他の人たちとこの理解を分かち合い、理解を広げられます。そして私たちはみな死にます。

(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)

.....
—「不平不満をもつことは、人生に目的をもつことである。不平不満は、希望の代替物のようなものとして機能しうる」波止場の哲人エリック・ホッファー（アメリカ人）—朝日新聞/天声人語から

 [目次へ戻る](#)